

CASBEE® 名古屋

評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE 総合評価 2016年版、CASBEE 建築環境総合性能評価システム (CASBEE) 使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)マストスクエア神田町 新築工事	階数	地上13F
建設地	名古屋市千種区神田町1703番1	構造	RC造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	187 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年12月 予定	評価の実施日	2023年12月26日
敷地面積	909 m ²	作成者	
建築面積	536 m ²	確認日	2023年12月26日
延床面積	4,325 m ²	確認者	



ください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 2.0

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%
②建築物の取組み 73%
③上記+②以外のオンサイト手法 73%
④上記+オフサイト手法 73%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安を示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 5
Q1 室内環境: 3
Q3 室外環境(敷地内): 2
LR1 エネルギー: 1
LR2 資源・マテリアル: 2
LR3 敷地外環境: 3

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Q のスコア = 3.4

Q1 室内環境 Q1のスコア= 3.9

Q2 サービス性能 Q2のスコア= 3.7

Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 2.5

LR 環境負荷低減性 LR のスコア = 3.7

LR1 エネルギー LR1のスコア= 4.4

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 3.5

LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 3.1

3 設計上の配慮事項		
総合 利便性の良い住環境の調和したまちに立つ、シンプルで都会的な外観と眺望の良い開放的な住まいを目指し、建物の配置計画等を行った。また、断熱等性能等級5とし、建物の熱負荷抑制に貢献している。		その他 建築物省エネルギー表示制度 (BELS) 取得予定 (ZEH-M Oriented)。
Q1 室内環境 断熱等性能等級5を計画し、冷房負荷の軽減に努める。	Q2 サービス性能 維持管理しやすい建材を採用し、清掃・点検等の維持管理機能の確保に努める。	Q3 室外環境(敷地内) 茶系の45二丁掛タイルを外装に採用し、妻側は木を連想させるアクセントの色替えのL型のマリオンで大きく底を回り込ませ、前面の開けた交差点に向けた建物のコーナーをデザインした。
LR1 エネルギー 断熱等性能等級5とし、建築物の熱負荷の抑制に努める。	LR2 資源・マテリアル トイレや各種水栓等の省水型機器を採用した。再生リサイクル材を使用するなど資源の保護と削減に努める。	LR3 敷地外環境 駐車場は住戸数に対して94%、駐輪場は150%確保し、近隣への交通の影響を考慮した。また、全住戸にディスプレイを設置しゴミの減量化に配慮した。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

(仮称)マストスクエア神田町 新築工事

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル
 ■評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				4.2
LR1	エネルギー	4.4	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	4.0	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.05	
2. 自然共生				2.2
Q3.1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	地域性のある材料の使用※1	有	0.009
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	2.0	0.045	
3. 循環型社会				3.3
LR2.1	水資源保護	3.4	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	3.3	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.3	0.01875	

結果

1. 温暖化対策	評価点 = 4.2
2. 自然共生	評価点 = 2.2
3. 循環型社会	評価点 = 3.3

重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1) 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。